

泥等。又云、如^シ人手^ノ創^ニ 捉^ニ毒藥^ヲ等。又云、大雨^ノ不住^レ空^ニ等云云。此等の多^クの譬あり。詮^スするところは上品の一闍提^ノ人になりぬれば、順次^ニ生^スに必^ズ無間^ノ獄に墮^ッべきゆへに現罰なし。例せば夏の桀^ノ殷^ノの紂^ノの世には天變なし。重科^有て必^ズ世^ヲほろぶべきゆへか。又守護神此國をすつるゆへに現罰なきか。謗法^ノの世をば守護神^スて去^リ、諸天^ヲまほるべからず。かるがゆへに正法^ヲを行^ハしるしなし。還^テ大難^ニ値^ベし。金光明經云、修^ニ善業^ヲ者日々^ニ衰滅^ス等云云。惡國惡時^ニこれなり。具^サには立正安國論^ニにかんがへたるがごとし。詮^スするところは天もすて給^ヘ、諸難^ニにもあえ、身命^ヲを期^ヒとせん。身子^ノが六十劫、菩薩行^ヲを退^タせし、乞眼^ノの婆羅門^ノの責^ヲを堪^ヘざるゆへ。久遠大通^ノの者^ノの三五^ノの塵^ヲをふる、惡知識^ニに値^ユへなり。善^ニに付け惡^ニにつけ法華經^ヲをすつる、地獄^ノの業^{ナル}べし。本願^トを立^ツ。日本國^ノの位^ヲをゆづらむ、法華經^ヲをすて、觀經等^ニについて後生^ヲを(期)せよ。父母^ノの頸^ヲを刎^ル、念佛^申さずわ。なんどの種々^ノの大難^ノ出來^スとも、智者^ニに我義^ヲやぶられずば用^ジとなり。其外^ノの大難^ノ、風^ノの前^ノの塵^{ナル}べし。我^レ日本^ノの柱^トとならむ、我^レ日本^ノの眼目^トとならむ、我^レ日本^ノの大船^トとならむ、等^トちかいし願^ハ、やぶるべからず。疑^ク云、いかにとして汝^ガが流罪^ノ死罪^等、過去^ノの宿習^トしらむ。答^ク云、銅鏡^ハは色形^ヲを顯^ハす。秦王^ノ驗僞^ノの鏡

① 捉=投 ② [詮するところ上品の一闍提人になり]一 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

は現在の罪を顯す。佛法の鏡は過去の業因を現す。般泥洹經云、善男子過去曾作無量諸罪種種惡業。是諸罪報。或被輕易。或形狀醜陋。衣服不足。飲食羸疎。求財不利。生貧賤家邪見家。或遭王難。及餘種々人間苦報。現世輕受斯由護法功德力。故等云云。此の經文日蓮が身に宛も符契のごとし。狐疑氷とけぬ。千萬難由なし。一一の句我が身にあわせん。或被輕易等云云。法華經云、輕賤憎嫉等云云。二十餘年が間の輕慢せらる。或形狀醜陋。又云、衣服不足。予身也。飲食羸疎。予身也。求財不利。予身也。生貧賤家。予身也。或遭王難等。此經文人疑べしや。法華經云、數々見擯出。此經文云種々等云云。斯由護法功德力故等者摩訶止觀第五云、散善微弱。不能令動。今修止觀。健病不虧。動生死輪等云云。又云、三障四魔紛然。競起等云云。我無始よりこのかた惡王と生て、法華經の行者の衣食田畠等を奪とりせしことかざしらず。當世日本國の諸人の法華經の山寺をたうすがごとし。又法華經の行者の頸を刎こと其數をしらず。此等の重罪はたせるもあり、いまだはたさざるもあるらん。果も餘殘いまだつきず。生死を離時は必此重罪をけしはて、出離すべし。功德は淺輕なり。此等の罪は深重なり。權經を行ぜしには此の重罪いまだをこらず。鐵を熱にいたう(甚)き